

公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学 学長業績評価 評価書

1 評価

評定	評 価
A	良好な業績と評価する

2 総評

平成28年度からの公立大学法人化に伴い策定された中期計画及び年度計画に基づき、年度毎の学長ビジョン、アクションプラン、戦略マップなどを全教職員に周知し、学長としてのリーダーシップを発揮しながら、着実に大学の価値向上に取り組んでいる。

公立大学法人評価委員会による評価結果（平成28・29年度）において中期計画の進捗が概ね順調に推移しているとの評価を受けていることに加え、教育、研究、社会貢献、業務運営、今後の展望それぞれについて、中期計画を着実に実施したこと、その後も継続してPDCA（計画・実行・評価・改善）を実施していることが認められ、「A：良好な業績である」と評価する。

教育については、公立化に伴う志願状況の好転に甘んじることなく、「地域のキーパーソンの育成」に向けた人材育成としての重要な部分である就職・進学状況の向上を目標としつつ、教育内容の質的な向上に常に注力するように教職員に指示し、その結果が出つつあることは評価できる。今後、年次の進行とともにその効果がさらに顕著になることが期待される。

平成30年4月に開設された薬学部では6年後の完成年度に向けて計画通り着実に環境が整いつつあり、教育においては工学部との共通教育を考慮しながら滞りなく推進していることは高く評価できる。

工学部では3学科のJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラム全てにおいて、平成30年度から6年間の継続認定を得ることができており、国際的な水準から見ても技術者教育の質の高さを維持・発展させていることが伺える。

また、工学部の将来構想についての議論についてイニシアティブが発揮されており、組織の見直しやST比（教員1人あたり学生数）の改善などが期待できる。

このほか、公立大学の教育研究活動は、地域社会との関係を重視しながらその発展に大きく貢献することが求められるが、「地域技術学」、「地域社会学」など地域科目の内容充実や、これまで地域の初等・中等教育及び社会人教育に対し、教職員と学生が共同しての参画・支援を進めている施策が多く認められることも業績として高い評価に値する。

研究については、計画的に研究基盤の整備を進めながら学内共同・連携研究の奨励を図っており、特に地域からの要望に密着した研究テーマによる学外機関・企業との共同研究を継続的に推進していることは公立大学の研究の方向性として評価されるべき内容である。また、研究者データベースが構築され、研究業績や研究シーズが外部公開されるようになっているとともに、科研費申請の奨励により、応募件数の増加とその結果として採択件数の安定的な確保が可能になってきた。さらに、研究推進機構の新設により、重点分野への研究予算の選択的な配分や、研究者や研究室の垣根を超えた研究展開が図られている。このほか、大学院進学者も増えてきており、工学研究科の定数増に向けた取り組み、研究者志向の学生に対する指導が適切になされている。

社会貢献については、研究コーディネータの配置に伴い、産学共同研究が活発になってきており、今後ますます実施件数は増えていくものと思われる。また「かがく博覧会」など行政、産業界及び地域から要請のあった非常に多くのイベントに積極的に参加しながら、市民向け大学開放授業を実施するなど大きな社会貢献が図られている。現在の大学の管理・運営体制を維持しつつ、地域とのコミュニケーションと施策・結果の発信の強化を進め、地域に根差し社会に貢献できる大学となるべく、さらに指導力を発揮することが期待されている。

学内の業務運営については、企業での研究や管理の業務経験を活かし、大学においても時間コスト、効率、予算対効果を発揮すべく、いくつかの新しい仕組みが提案され、実施されている。

今後の展望については、教育関係機関や産業界からより一層注目される工学部に発展するための改革、大学院研究の質的向上と国際化対応、研究科の学生定数増、海外から優秀な留学生を積極的に迎え入れるための国際化に対応できる入試と教育のシステム、より一層の産学連携研究の強化などによる大学独自の安定した財源確保の道筋や、薬工連携による具体的な研究推進の実現、地元への就職率の向上なども期待される。